

BWX取扱説明書

ご使用の前に必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後は大切に保管し、必要に応じて活用ください。
別冊の品質保証書と取扱説明書もよくお読みください。

点検方法

❶ 強 制

乗る前の「日常点検」と販売店に願ひする「初回点検」「定期点検」を必ず実施してください。また、異常を感じた場合も販売店で点検を受けてください。

初回点検

使用開始後2ヶ月以内、または100km到達時に販売店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。初期の内は特にネジがゆるみやすいので、必ず販売店で点検を受けてください。点検は有料です。

定期点検

購入後6ヶ月以内、12ヶ月以内、その後は1年ごと及び異常を感じた場合に販売店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。

安全に長くお使いいただくために必ず販売店で定期点検を受けてください。点検は有料です。長い間使用せず、再び使用するときも点検をお受けください。

乗るまえの日常点検

乗る前に必ず点検し、安全を確かめてから乗ってください。

変形や破損している部品は必ず新品と交換してください。

変形や破損したまま使用をつづけると、大きな損傷や事故につながるおそれがあります。

《ディスクブレーキについて》

この自転車は、ディスクブレーキを使用している車種があります。乗る前に以下のとおり、点検を行い、安全を確かめてから乗ってください。

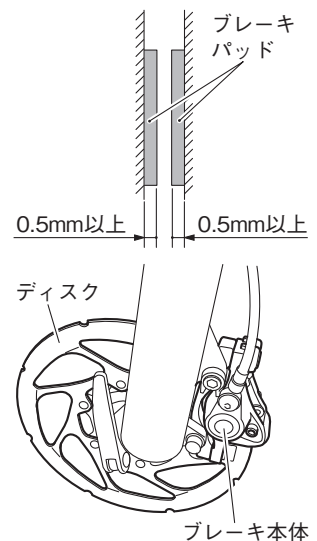
一般的な点検項目のみ説明します。

詳しくは各ディスクブレーキ（部品）の説明書もごらんください。

- ブレーキパッドの残りが0.5mm以上あること。
- 前後それぞれブレーキをかけて、正しく作動すること。
- ディスクが変形したり、油が付着していないこと。

⚠ 警 告

点検や整備で車輪を回転させる時は、回転中のディスクにさわらないようにしてください。指を巻き込まれてケガを負う危険があります。



乗る前の調整方法

安全を確保するために、各部の調整は注意点を守って確実に行ってください。

これを怠りますと思わぬ事故につながります。ご不明な点がございましたら、販売店にご相談ください。また、調整はお子様にはさせないようにしてください。

《正しい乗車姿勢》

サドルに腰をおろし両手をにぎりにおいた状態で、

- ① 両足先が確実に地面につくこと。
- ② 上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
- ③ ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操縦操作ができること。
- ④ 円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、シフトレバー、ベルなどが安全に操作できること。



《シートピンについて》

この自転車は、クイックレバー式シートピンを使用しています。乗る前に以下のとおり、調整・点検を行い、安全を確かめてから乗ってください。

サドルの調整のしかた

⚠ 警告

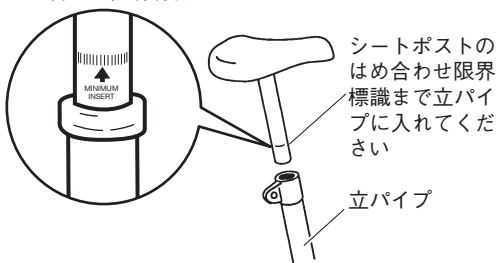
調整後は、確実に固定されているか確認してください。固定が不十分であると、運転できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

サドルの高さ

⚠ 警告

最も高くした場合でも、シートポストのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えていると、サドル(シートポスト)の折れや抜けにより事故・けがのおそれがあり危険です。

はめ合わせ限界標識

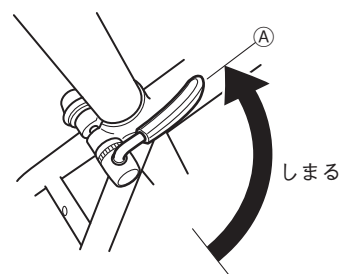
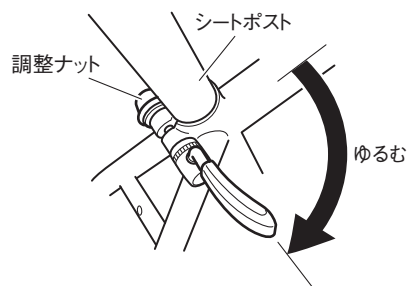


調整方法

— ⚠ 注 意 —

クイックレバー式シートピンは、カムレバーを開閉して「締め」「ゆるめ」をおこないます。カムレバーを回して締め付けるものではありません。

- ① カムレバーを「ゆるむ」の方向に開いて固定をゆるめ、サドルを上下に調整してください。
- ② 固定するときは「しめる」の方向のⒶの位置までカムレバーを閉じて固定します。
- ③ カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に100N(10kgf)～160N(16kgf)の力で閉じられるように、調整ナットの締め具合を調整してください。
- ④ シートポストが十分に固定しなかったり途中でレバーが固くて閉じないときは、もう一度調整ナットの締め具合を調整しなおしてください。



— ⚠ 警 告 —

調整後は、レバーが足に当たらない位置に閉じてください。ペダルをこいだときにレバー先端が足に当たってけがをするおそれがあります。

《ハンドルについて》

この自転車は、アヘッドタイプのハンドルステムを使用しています。
乗る前に以下のとおり、調整・点検を行い、安全を確かめてから乗ってください。

ハンドルの調整のしかた

— ⚠ 警 告 —

調整後は、確実に固定されているか確認してください。固定が不十分であると、運転できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

構造

- ハンドルステムの固定は、後部のクランプボルトで前ホークステムに固定します。
- ヘッド玉当たり調整は、上部のアンカーボルトの締め付け加減で行う方式です。

— ⚠ 注 意 —

アンカーボルトは固定用ではありません。

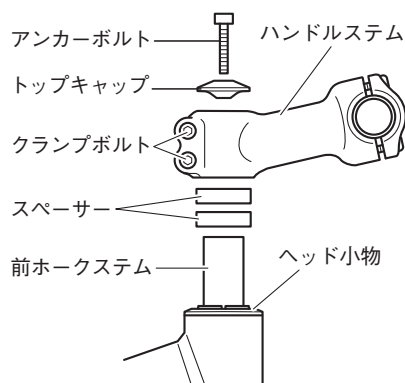
- ハンドルステムの高さ調整は、一般の自転車のようには行えません。

ヘッドの調整

- ① 右図の順序で各部品を仮組みします（製品により仕様は若干異なります）。
- ② ヘッドの回転具合を確認しながらアンカーボルトを締め、ヘッド玉当たり調整を行います。
※この調整をする時、クランプボルトは緩めておいてください。

▲ 注 意

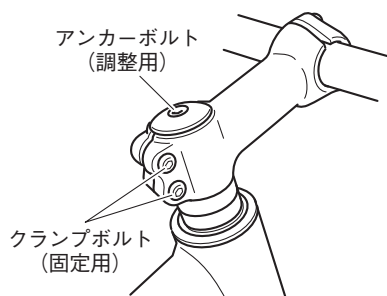
アンカーボルトを締めすぎると、ヘッドの回転が重くなり、更に強く締め付けると、トップキャップやアンカーナットが破損するおそれがありますので、絶対に締めすぎないでください。
締付トルク目安：2.5N・m(25kgf・cm)



- ③ 前ホークにガタがないことを確認してください。

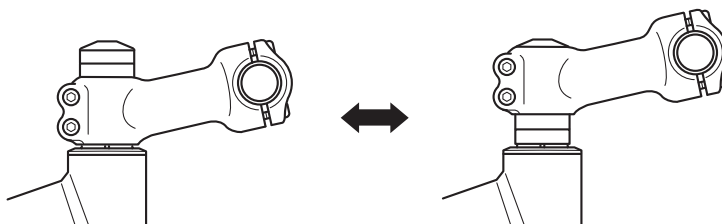
ハンドルステムの固定

ハンドルバーが前車輪と直角になるように保持し、クランプボルト2本を交互に締め付けていって、ハンドルステムを前ホークステムに確実に固定します。



ハンドルステムの高さ調整

一般自転車のように調整できませんが、スペーサーとの位置を入れ替えることで高さが変わります。



ハンドルの回転角度

この自転車は、ハンドル（前輪の向き）が左右に必要以上に回らないよう設計されています。

